

オーストラリアドルと中国

オーストラリアドル (A\$) が今日再び対ドルで 0.70 を超えた。直近では 0.70 を挟んだ水準で取引されている。年初来高値の水準に近い。

A\$の通貨の特徴としては次の点が挙げられてきた。

- 1) 資源国通貨である。オーストラリアの主力輸出品が鉄鉱石などのコモディティーであり、それらの価格と A\$との相関関係が強いことに由来する。
- 2) 高金利通貨である。オーストラリアは比較的好調な経済を背景に比較的高い金利水準を維持してきた。そこでキャリートレードの資金運用通貨として利用されてきた。だが今年三月に政策金利を 0.75% から 0.25% に下げ、他の先進諸国とあまり差のない金利水準になった。
- 3) リスクオンで買われる通貨である。世界景気に敏感な通貨であり、昨年までの 30 年間景気後退がなかった。だが今年はコロナウイルスの影響もあり景気後退が見込まれる。
- 4) 中国との関係が深い通貨である。中国は最大の輸出先であり、中国への輸出は最近 5 年間で倍増した。鉄鉱石や石炭といった資源ばかりではなく、教育、観光などのサービス産業の輸出も伸びている。教育は鉄鉱石、石炭に次ぐ輸出産業になった。

A\$はこうした特徴を持つ通貨だが、最近中国との関係に異変が起きつつある。オーストラリア政府は 5 月、中国にコロナ問題の調査を提起した。最近では香港への中国による国家安全法の適用に抗議した。これらの背景には中国のオーストラリア社会への浸透や政治関与に対する警戒の高まりがある。

中国は対抗措置として経済制裁を課した。牛肉の輸入制限や大麦の輸入への高関税率の適用などだ。教育、観光、ワインなどの産業への打撃になるような措置もとった。石炭はオーストラリア産ではなく国内産の利用を勧めている。

つまりオーストラリアと中国の関係は悪化している。こうなると A\$への影響も避け難くなるはずだ。つまり A\$は下落傾向になる。だが実際は冒頭で言ったように、現在は A\$の対米ドルレートは年初来高値の水準に近い。3月の中旬を底に上昇傾向をたどっている。

理由として考えられるのは、一つには、米ドルの下落トレンドだ。米国の短期金利はゼロ近辺でしばらく上がりそうにない。長期金利も低下傾向にある。二つ目はコモディティー価格の持ち直しだ。三つ目は中国との関係の悪化が経済統計の数字となって表れるのはこれからだ。何だか、企業業績や経済のファンダメンタルズと関係なく上昇している最近の世界の株価のようだが、中国の要因は米ドル金利の要因と同様強力だ。

今後悪化した経済指標が発表される時、A\$が売られる可能性は十分ある。だがトレンドとして続くかは米ドル金利との綱引きになる。